

# 政治研究結果報告書

—政治研究助成—

西暦 2024 年 1 月 4 日

一般財団法人 櫻田 會  
理事長 増田 勝彦 殿

研究者 法政大学法学部准教授  
熊倉 潤

第 4 1 回（令和 4 年度）櫻田會政治研究助成による研究を下記のとおり実施しましたので、その結果について報告します。

※印の記入項目に関する貴會ホームページへの掲載についても同意いたします。

## 記

※研究の名称（英語も記入） Research Theme

ウイグル人ディアスポラの政治思想

Political Ideology of the Uyghur Diaspora

※英文抄録（研究目的、経過、成果 250 words 以内） Abstract (Purpose, Process, Significance)

This research aims to clarify the political thought of Uyghurs based on the publications of Uyghurs diaspora. Specifically, I analyze Uyghur publications in Istanbul, where many Uyghurs live, and trace the development of Uyghur independence theory and genocide theory in recent years. With the support of this research grant, first, I purchased Uyghur publications in Turkey. Secondly, I met with publishing companies and individuals from Xinjiang living in the U.S.A. and Taiwan. The research results will be published through several lectures and conference reports in this year.

※研究の目的・研究方法・意義（和文 600 字以内）

本研究は、在外ウイグル人の出版物をもとにウイグル人の政治思想を明らかにすることを目的としていた。具体的な研究方法としては、ウイグル人の多く住むイスタンブルにおいて近年出版されたウイグル人ディアスポラの著作を分析対象とし、近年におけるウイグル独立論、ジェノサイド論の展開をあとづけるものであった。

本研究の意義としては、そもそも在外ウイグル人の出版物をもとにその政治思想を考察する研究は、世界的に見ても少ないのが現状である。科研費においても、申請者が参加する基盤研究（C）「『国なき民』の出版と民族意識：クルドとウイグルの比較から」を除いて他にない。基盤研究（C）では、予算の制約があり、出版物を多く購入することはできないという事情もあった。そのような意味で、本研究は独創的かつ国内において類例を見ない、極めて貴重な研究である。在外ウイグル人の出版物はそれほど多くの部数が出版されず、国家の支えもないため、国立図書館に収蔵されることもなく、時間が経てば簡単に散逸する運命にある。これを収集し記録にとどめることの意義は大きいと言えよう。

#### ※研究経過と結果の概要（以下の欄に 35 行以内(1500 字程度)にまとめる)

まず本研究助成の支援を得て、イスタンブル（トルコ）のゼイティンブルヌ地区にあるウイグル専門書店から在外ウイグル人の出版物を購入した。2023 年（令和 5 年）9 月 23 日から 10 月 2 日まで別の資金を受けてトルコに滞在できることになったため、この機会にタクラマカン書店で、アブドゥウェリ・アユップの『不滅の魂』<مه هبۇس روھلار>（ウイグル語）など出版物の購入をすすめた。同書には、実際に新疆で逮捕収監された著者による「アッラーか、共産党か」、「コーランか、ヘロインか」といった内省が展開される。こうした資料を手に入れることで、ウイグル人の政治思想、とりわけ近年におけるウイグル独立論、ジェノサイド論の展開をあとづける研究作業を前に進めている。

第 2 に、2023 年（令和 5 年）6 月下旬、米 NCFP の招きでニューヨークに出張する機会を得た。その際に本研究助成の支援を受けて、同月 24 日から 7 月 2 日にかけて滞在期間を延長し、ニューヨークとワシントン D.C.において現地在住のウイグル人らと面会した。特に、Radio Free Asia でウイグル語での発信を続けるショフレト・ホシュル氏、回想録の出版で注目を集めている詩人のタヒル・イズギル氏、長年ウイグル人の運動の中心にいたラビア・カーディル氏、シディック・ロウジ氏夫妻らと会って直接話をするのができたのは、大変貴重な機会であった。

第 3 に、2023 年（令和 5 年）11 月 9 日から 11 月 12 日にかけて台湾に出張し、出版関係者、現地在住の新疆出身者らと面会した。台湾では、前述のタヒル・イズギル氏の回想録の繁体字中国語版『等待在夜裡被捕：維吾爾詩人的中國種族滅絕回憶』が出版されており（筆者も推薦人に加わっている）、現地の出版状況を継続的に注視していく必要がある。

以上の面会等を通じて、単なる文献調査としてではなく、書き手やその周囲の人たちと実際に会って話をすることで立体的なものとして理解することができた。第二、第三のアメリカ、台湾での調査は、必ずしも当初から予定していたものではなかったが、第一のトルコ出張で外部資金を得たため渡航費、滞在費が節約できたこともあり、第二、第三のアメリカ、トルコでの調査を行うことができた。

**※研究成果の発表・著書、論文、学会報告等（あるいは発表の計画や形式等）**

研究成果は今後、いくつかの講演、学会報告等を通じて公表していく予定である。さしあたり確定しているものとしては、2024年（令和6年）1月の中国研究所「2024年新春講演討論会」での講演、3月の The 3rd Islamic Trust Studies International Conference がある。また、申請準備中のものとしては、6月のアジア政経学会全国大会での学会報告がある。これらの講演、学会報告を経て、年内に論文としてまとめることを計画している。

**〔注〕 文責は貴研究グループに負っていただきます。個人情報等には十分ご注意ください。**